

国際協力研究会 議事録

日時：2003年 5月8日(木) 午後6時30分～8時30分

テーマ：過剰都市化・首位都市化・メガ都市化 アジアの都市化の現状と展望

報告者：新田目夏実氏(拓殖大学国際開発学部教授)

会場：国際建設技術協会 6階会議室

出席者：海老塚、矢野、柴田、横尾、本田、兎内、佐々波、保坂、川添、田村、徳永、小畑、松村、小松、大場、志賀、阪東、市村、高橋、吉田、北村、光永、中村、田中、塩月、森下、齊藤(計27人)

I. 報告

- ・世界都市化、人口問題の概要、一般的見解
- ・過剰都市化、アジア都市化モデル、メガ都市に関する議論

II. 質疑応答・意見

Q. アジア地域内、また外国からの移民の出入りはアジアの都市化論、都市スラム等とどのように関連付けて考えられるか。

A. 直接、移民の数と都市人口の増加や都市生活の変化(例えば、犯罪の増加)などと関連付けるのはフィリピンの場合難しい。しかし国外からの送金額がどのようにスラム住民の生活を支えているか、また海外出稼ぎ労働者(の家族)がどの地域に、なぜ集中しているのか、というようなストーリーの中で考えることは可能である。

Q. 資料にある数値はどこまで信頼のおけるものか？

A. 都市の定義や時点の違いから正確とは言えないが、相対的な比較という点では参考になる。

Q. 経済政策のみでなく、人口政策を考慮した都市計画であるべき。移民を今後さらに受け入れていくべきか。

A. 移民を受け入れるかどうかという問題は日本のような国では議論の分かれるところだが、「人口輸出国」であるフィリピンではまだ問題にならない。ただし、まだまだ出生率が高く、それが急速な人口増加につながっているのは事実なので、保健・衛生分野の努力(特に家族計画)が必要とされている。

Q. 中小都市の位置付けについて

A. フィリピンの場合ダバオ、セブといった地方中核都市の成長が見られる。また世界的にも実際には大都市人口の割合は想像以上に少なく、近年中小都市の成長が見られる。大都市と同時に中小都市の開発にも目を向ける必要があるのではないかと。

Q. 今後メガ都市にどう対処したらよいか

メガ都市には確かに多くの都市問題が存在するが、しかし、単に都市規模が問題なのではなく、どのように都市を運営するかといった視点がより重要なのではないかと。その意味で、行政、市長の役割は大きい。従来の日本の援助にはインフラ関係が多いが、より直接的に、特定貧困地域に影響を与えるような援助の方法があってもいいのではないかと。等。

(文責：矢野麻美子)